

## 会 議 録

会議の名称	令和元年度 第1回 所沢市地域福祉推進委員会
開催日時	令和元年6月7日（金）10時00分 ～ 正午
開催場所	こどもと福祉の未来館 多目的室3・4号
出席者の氏名	中島 修（委員長）、神武 恭子（副委員長）、赤坂 悦、大島 隆代、梅本 晶絵、遠藤 和幸、柴井 せん、清水 路子、高柳 進、根本 明子、安田 有志、我妻 明、渡辺 正晴
欠席者の氏名	伊藤 伸
説明者の職・氏名	
議 題	(1) 第2次所沢市地域福祉計画進捗状況の報告 (2) 第3次計画の策定について (3) その他
会議資料	<p>【配布資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議次第</li> <li>・ 資料1：進行管理表（第2次所沢市地域福祉計画の指標としている取組）</li> <li>・ 資料2：重点施策の取り組み</li> <li>・ 資料3：「こどもと福祉の未来館へようこそ！」</li> <li>・ 資料4：第2次所沢市地域福祉計画 市民意識調査 資料</li> <li>・ 『こどもと福祉の未来館通信』4月号・6月号（各1部）</li> <li>・ 「早わかりふるさと所沢の歴史」チラシ</li> <li>・ 「ウィルチェアーラグビー体験会」チラシ</li> <li>・ 所沢市社会福祉協議会平成31年度（2019）事業のしおり</li> <li>・ 所沢社協だより『ちやお』No.91</li> <li>・ 「地域福祉サポーター養成講座」チラシ</li> <li>・ SC通信所沢市の生活支援体制整備事業</li> <li>・ 「夏のボランティア体験2019」チラシ</li> </ul>
担当部課名	福祉部 地域福祉センター 電話04（2922）2115 地域福祉センター センター長 大出 久美 地域福祉センター 主査 遠藤 康代 地域福祉センター 主任 鹿島 裕太

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
<p>事務局 （大出センタ 一長）</p>	<p>1. 開 会 開会を宣言した。</p> <p>2. 委嘱状交付 委員変更があったため、委嘱状の交付を行った。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>3. 委員長あいさつ 先般、引きこもりに係る事件が続けて発生した。当委員会でもこれまで議論をしてきたが、SOSを出すことができない人をいかに支えるかということについて、その難しさを改めて感じたところである。また、今年は民生委員・児童委員の一斉改選が行われる年でもある。高齢社会の中で担い手不足が懸念されているが、全国の7割の自治体で充足率が100%となっているなど、担い手確保のために自治体も努力していることが窺える。本日は新年度第1回目の委員会となるが、今回新たに委嘱された委員においては、忌憚のないご意見をいただきたい。</p>
<p>事務局 （大出センタ 一長）</p>	<p>～欠席者の報告～ 伊藤委員</p> <p>～会議の公開の確認～ ・公開とし、会議録の確定は委員長の承認、署名をもって確定とさせていただく。 ・傍聴希望者なし</p> <p>～地域協議会～ 社会福祉法人が行う地域公益事業について意見を伺う「地域協議会」については、提出案件がなかった。</p> <p>～資料の確認～ 配布資料を確認した。</p>
<p>事務局 （鹿島主任）</p>	<p>4. 議 題 1. 第2次所沢市地域福祉計画進捗状況の報告について 資料1により、地域福祉計画の指標としている市及び社会福祉協議会（以下、「社協」）計24の取組について、平成30年度実績の報告を行った。 ・平成32年度目標を達成した取組は7あった。 ・平成29年度比で実績が向上した取組は18あった。 ・こどもと福祉の未来館（以下、「未来館」）の利用者満足度は、5ポイント増えて85%となった。</p>

<p>中島委員長</p>	<p>・地域包括支援センター（以下、「包括」）の相談件数が平成29年度27,669件から36,901件と大幅に増加した。</p> <p>内容について質問や意見はあるか。</p>
<p>遠藤委員</p>	<p>基本施策9「権利擁護の推進」について、第2次所沢市地域福祉計画には「（仮称）成年後見センター」の設置と記載されているが、現実にセンターが設置され、そこで市民後見人養成講座等が開催されているのか。</p> <p>また、基本施策10「生活困窮者の支援」におけるホームレスの自立支援に係る「保健センターとの連携による生活相談・健康相談」の実施について、開催回数が2回から1回に減ったことについて説明いただきたい。</p>
<p>事務局 （大出センタ 一長）</p>	<p>「成年後見センター」という名称の組織は設置していないが、未来館1階の福祉の相談窓口内に、権利擁護に係る相談支援窓口としてその機能を置いており、相談支援のほか、権利擁護に係る研修会、講演会等の啓発事業も行っているところである。</p>
<p>事務局 （鹿島主任）</p>	<p>生活相談・健康相談については、生活福祉課によれば、埼玉県からの依頼を受けて開催しており、昨年度は依頼が1回であったため、1回の開催だったと報告を受けている。</p>
<p>遠藤委員</p>	<p>福祉の相談窓口に「成年後見センター」を設置したものではなく、権利擁護に係る相談窓口機能を福祉の相談窓口を持たせているという理解でよいか。</p>
<p>事務局 （大出センタ 一長）</p>	<p>そのとおりである。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>ホームレスについて、国は「都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所とし、日常生活を営んでいる者」（ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法第2条）と定義しており、その数は目視によって確認しているが、統計的には減少傾向にある。こうしたことから、生活相談・健康相談の開催が1回にとどまったということも考えられる。他方で、同法の定義に該当しない、ネットカフェ等で寝泊まりしている若者たちが増えているという新たな課題もある。現在は生活困窮者の相談窓口で対応している例もあるかと思うが、今後どのように支援していくか考えていく必要がある。</p> <p>また、県内全体では認知症高齢者が増加しており、支援の担い手をどう増やしていくかが課題となっている。県内の市民後見人は数人の選任にとどまっているが、都内では選任されるケースが増えているなど地域差もある。他方で、認知症高齢者は増加し、包括の相談件数も増加している。これらの課題については、行政だけで対応することも、現在の資源だけで対応することも難しい。本委員会はもちろん、高齢者や障害者の審議会でも議論していく必要がある。</p>

清水委員	<p>さて、包括の相談件数が大幅に増加しているとの報告があったが、清水委員からご意見等はあるか。</p>
安田委員	<p>包括の周知が進んでいることに加え、認知症高齢者が増えていることなどが要因ではないかと感じている。また、以前は地域内に所在していない包括もあったが、現在はすべてが地域内に所在しており、相談しやすい環境になっていると考えている。</p>
中島委員長	<p>民生委員・児童委員の充足率について、所沢市では14名の欠員があるということだが、一般的にこの充足率は100%であることが当然なのか。</p>
安田委員	<p>当然ではない。目標としては100%を掲げているが、実際に達成することは容易ではない。特に都市部では地域のつながりが薄くなりがちで、成り手が確保できずに欠員が生じるケースが多い。また、定年を迎えた後も仕事に就く人が多くなっていることなども、成り手不足の一因となっている。</p>
中島委員長	<p>民生委員・児童委員の定数はどのように決めているのか。</p>
赤坂委員	<p>都道府県が市区町村の定数をそれぞれ条例で定めている。成り手の確保について、赤坂委員からご意見等はあるか。</p>
高柳委員	<p>市民からの民生委員・児童委員に対する期待や要求のレベルが上がってきており、それに応えられないという委員も出てきている。今年12月の一斉改選に向けて成り手を探しているところだが、ぜひお願いしたいと思うような方は「他にやりたいことがある」等の理由で、ことごとく断られている。</p>
中島委員長	<p>新所沢東地区で民生委員・児童委員の推薦会委員を務めているが、中には任期の途中で辞めてしまう人もいる。引き受けていただく方には責任感を持って務めていただけるよう、自治連、社協、包括等で横の連携をとりながら支援していきたい。</p>
大島委員	<p>民生委員・児童委員は様々な地域活動に参画しているが、様々な役割を担って負担となってしまうことがあるので、地域で支援していけると良い。</p> <p>地区社協について、所沢市には11の行政区があり、1行政区に地区社協とまちづくり協議会が設立されれば、目標値の22を達成することとなる。他方、各行政区で双方が設立されれば良いかという、それぞれの構成員が重複することもあるため、目標値の考え方については、社協の計画とも調整しながら検討していく必要がある。</p> <p>ところで、民生委員・児童委員については、成り手不足の一方で、求められる専門性が高くなっている。住民から相談を受けた際、基本的には専門職につなぐよう案内している自治体もあるが、所沢市ではどのように対応しているか。</p>

<p>事務局 (遠藤主査)</p> <p>中島委員長</p>	<p>必ずしも民生委員・児童委員自身が相談内容を解決する必要はなく、相談内容に応じて適切な機関につないでいただくことが主な役割であると案内している。</p> <p>続いて、地域福祉計画に位置付けている重点施策や、重点施策に関連が深い未来館の取組状況について説明いただきたい。</p>
<p>事務局 (遠藤主査)</p>	<p><b>【重点施策について】</b></p> <p>地域福祉計画では、11の基本施策のほか、庁内や社協等と連携し、横断的に取り組むべき事項として、A～Cの「重点施策」を位置付けている。</p> <p>A「地域福祉活動の担い手となる人材の活動促進」</p> <p>①人材の育成から地域福祉活動につなげる仕組みの推進 …未来館等の活動拠点へ繰り返し来ていただくための取組</p> <p>②団体間の相互の交流機会の開催 …未来館の利用者懇談会や未来館まつりなど</p> <p>B「地域福祉の拠点を通じた福祉情報の提供」</p> <p>①地域福祉の拠点の利用促進 …「サロン」や「子ども食堂」など、より身近な圏域における居場所づくり</p> <p>②地域福祉の拠点における情報収集・発信 …地域福祉の拠点としての未来館における情報収集・発信</p> <p>③ICTを活用した地域福祉拠点に関する情報発信 …SNSを活用した情報発信など</p> <p>C「地域福祉課題の解決に向けた推進体制の構築」</p> <p>①地域福祉コーディネート機能の強化 …コミュニティソーシャルワーカー（CSW）による取組</p> <p>②（仮称）庁内地域福祉推進連絡会議の開催 …計画策定に係る機能を持った会議体について検討が必要</p>
<p>事務局 (大出センター長)</p>	<p><b>【こどもと福祉の未来館の取組状況について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉の拠点施設として平成29年1月にオープンし、2年5ヶ月が経過。</li> <li>・利用者満足度は平成29年度の80%から5ポイント上昇したが、施設の予約が取りづらい、駐車場が狭いといった意見も寄せられている。</li> <li>・利用者数は未来館全体で年188,554人、1日平均で約528人。平成29年度と比較すると、1日あたり45人ほど増えている。</li> <li>・貸出施設の稼働率は全体で47.8%。体育館は約87%と人気。</li> <li>・予約が入っていない施設の活用策として、学習スペースの開放を平成30年7月下旬より実施。</li> <li>・福祉の相談窓口の平成30年度利用者数は8,452人。分野別では障害者相談や就労支援が多く、権利擁護が少ない。複数の分野にまたがる相談の場合、その内容の最たる分野にカウントしている。</li> </ul>

<p>中島委員長</p> <p>根本委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の相談窓口の周知のため、コミュニティビジョン、電光掲示板、広報ところざわ等を活用した。</li> <li>・平成30年度は他の所属や機関等とも連携し、未来館まつり、マドレーヌ作り体験、地域福祉みらいフォーラム等の事業を開催した。多世代交流や障害がある人ない人の交流など、この施設ならではの活用方法を今後も探っていきたい。</li> </ul> <p>内容について質問や意見はあるか。</p>
<p>事務局 (大出センター長)</p>	<p>泉町から距離のある三ヶ島地区では、未来館の存在を知らない人が多い。パンフレット等を回覧したり、小中学校に周知したりしてはどうか。</p> <p>市民意識調査の結果で見ても、柳瀬地区や三ヶ島地区等、未来館から遠い地区の認知度は低い。一方で、行政からのお知らせや依頼事項等の増加により、全市的に自治会や小中学校の負担も大きくなっており、市としてそれらの負担を減らす方向性を打ち出している。特に若い世代に知っていただけるような周知の方法を検討したい。</p>
<p>中島委員長</p> <p>柴井委員</p>	<p>人口が多い自治体としては、所沢市の自治会加入率は比較的高く、行政の周知啓発においてこれまで重要な役割を果たしてきているが、今後は何らかの工夫をしたいところである。</p>
<p>中島委員長</p> <p>梅本委員</p>	<p>三ヶ島地区では確かに未来館の認知度は低いと感じている。ボランティア団体では市内の施設巡りを行っているが、その中で未来館も見えていただくことで、利用促進につながられると感じた。</p> <p>県内には障害の有無にかかわらず楽しめる「ニュースポーツ」を広めている団体もある。例えばそうした団体と連携し、未来館だけでなく各地域でも開催することで、未来館の周知につなげることもできるのではないか。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>社協でも、未来館や福祉の相談窓口のPRに注力したいと考えており、その一環として、福祉の相談窓口の紹介記事を盛り込んだ社協だより『ちゃお!』7月号を全戸配布する予定である。</p> <p>また、地域福祉の推進のためには、CSWを中心として職員が地域に出向いて行くことが重要であると考えている。地域には住民主体の取組が数多くあるが、そうした取組の主体と協働して、地域の実態に即した活動を展開していきたい。また、福祉の相談窓口のみならず、住民の身近な場所で気軽に相談できる場も増やしていきたいと考えている。</p> <p>福祉の相談窓口における相談件数のカウントについて、複数の内容にまたがる場合、いずれか1つの分野にカウントしていると説明があった。相談者数をカウントするという点では妥当だが、今後、複合的な課題を把握し、包括的な相談支援体制を検討してい</p>

<p>事務局 (遠藤主査)</p>	<p>くためには、それぞれをカウントするなどの工夫が必要となる。また、高齢者の相談については包括が対応しているが、今後はそれらも含め、所沢市全体での相談支援体制を包括的に捉えていく必要がある。今回の報告では、福祉の相談窓口の相談件数は約8,500件ということであったが、複合的な課題をすべてカウントすればその数は大きなものになるだろう。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>2. 「第3次計画の策定について」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、地域福祉に関する市民アンケートを無作為抽出により実施する予定。来年2月に開催予定の地域福祉みらいフォーラムについても、計画策定を見据えたものとして調整を図っていく。これらの機会を通じ、地域の声をより多く集め、その分析をしながら計画の骨子案をまとめていく。</li> <li>・アンケート調査はコンサルティングを導入して実施予定。プロポーザルにより事業者と契約後、9月中旬に発送、9月末を提出期限にする予定。その後、12月末を目途に報告書の提出を求め、来年2月に予定している第3回本委員会で、委員の皆様へ報告したいと考えている。</li> <li>・アンケートの内容は、統計的な観点から前回の設問をベースに検討するが、新たな設問も加える。また社協の地域福祉活動計画との連携も図っていくため、社協の視点も踏まえて設定する。</li> <li>・前回のアンケートは18歳以上の市民3,000人を無作為抽出。34.7%の回答をいただいた。設問は41問と自由意見。今回は対象を5,000人に増やして実施予定だが、前回同様18歳以上とするか、中高生と一般の2区分設けるか、その他のアイデアがあればいただきたい。また、設問についても盛り込むべき内容等があればご提案いただきたい。</li> </ul>
<p>梅本委員</p>	<p>こうした調査は高齢者の回答率が高い傾向にあり、若年層の意見をどのようにして集めていくかが重要となる。内容について質問や意見はあるか。</p>
<p>高柳委員</p>	<p>子どもたちの声を聞く機会も少ないため、中高生の声も聞いてみてはいかがか。社協では地域福祉活動計画を策定する際、小学校高学年の児童や中学生に対して、簡易な内容のアンケートを行った。中にはハッとする意見もあり参考になった。</p>
<p>遠藤委員</p>	<p>対象者に含める場合は、担任の先生等から回答に協力するよう指導していただくため、各学校長宛にもアンケートを実施する旨を伝えていただきたい。</p>
<p>中島委員長</p>	<p>中高生にとって「地域福祉」は馴染みのない言葉であろうが、アンケートを実施することによって「地域福祉とは何だろう」と考える機会にもなる。そうした意識付けという意味でも、将来を担う中高生を対象として良いのではないか。</p> <p>対象者に含めて実施することで、若い世代に対して地域福祉や未来館の周知啓発にもつながるだろう。</p>

事務局 (大出センタ 一長)	中高生を対象者に含める方向で検討していきたい。具体的な実施方法等は今後事務局で検討していく。
中島委員長	
事務局 (遠藤主査)	3. 「その他」 事務局から報告事項等はあるか。
梅本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『こどもと福祉の未来館通信』 4月号・6月号の紹介</li> <li>・ 地域福祉センターの主催事業「早わかりふるさと所沢の歴史」及び「ウィルチェアーラグビー体験会」について紹介</li> </ul>
中島委員長	本日、所沢社協だより『ちゃお!』や「地域福祉サポーター養成講座」のチラシ等を配布しているので、お手すきの際にご覧いただきたい。
事務局 (大出センタ 一長)	議題はすべて終了した。事務局にお願いしたい。
事務局 (大出センタ 一長)	次回会議の日程は、令和元年11月22日(金)午前10時を予定している。
事務局 (大出センタ 一長)	4・閉 会 閉会を宣言した。